

発行所

株式会社FPシミュレーション

大阪市中央区平野町3-1-10 Tel :06-6209-7678

編集発行人:税理士 三輪 厚二 Fax :06-6209-8145

⇨ 気になる税効果会計の厳格運用

Q : 最近、税効果会計の厳格な運用により、繰り延べ税金資産を取崩す例が増えていると聞きます。なぜ取崩す必要があるのでしょうか？

A : 業績悪化により、将来の課税所得の見通しが悪くなったからです。

【解説】

税効果会計は、会計上の利益と税務上の課税所得とのズレを調整するための会計手法をいいます。たとえば、会計上では売掛債権を貸倒損失として計上しても、税務上では損金として認められないことが多く、将来その得意先が法的に整理されるなどの事実が生じた場合に初めて損金として認められ、過去に支払った税金が戻ってくることとなります。税効果会計は、この将来戻ってくると見込まれる税金分を損益計算書上では税金を減らす処理をし、貸借対照表上では繰り延べ税金資産として計上することにより、結果的に自己資本がふえる仕組みになっています。

ただし、繰り延べ税金資産は、将来の回収の見込みについて每期見直しを行わなければならないとされていますので、業績が悪化し、将来の課税所得の見通しが悪くなれば、その見通しに応じた繰り延べ税金資産しか計上できなくなり、過去に回収できると見込んで積み立てた繰り延べ税金資産を取り崩さなければならぬわけです。そんな理由から、繰り延べ税金資産が取崩されているのです。

